

【ねがいはしては】

平成29年10月25日

KYOWA SCHOOL

第324号

「自然な子」

もう30年以上も前になりますが、ある心理学者の本に出会いました。加藤諦三さんです。青年心理についてのものに特化しており、読んだ覚えがあります。最近その方が書かれた本に出会いました。『親が与えている愛、子どもが求めている愛』という著書です。その中に度々「良い子」という表現が現れます。加藤さんが書かれている良い子の定義をいくつか紹介いたします。

- ・無駄に人生を生きている子は多い。その典型が「良い子」
 - ・真面目に仕事をし、真面目に勉強しているのに、最後には八方ふさがりになってしまう。
 - ・日常生活でも努力はしているが、人間関係が上手くいかない。
 - ・外側の生活はまともなのだけれども、心はいつも悩んでいる。
 - ・いつも服従である。
 - ・心の底から満足するということがない。
 - ・その不満を外に出さない。
 - ・立派な大人、立派な少年になっているのだが、心は成長していない。
 - ・「良い子」は憎しみを心の底に持ちながら、「いい人」を演じる。だから生きるのが楽しくない。
- まだまだたくさんあるのですが、以上は大人の世界にも通じる良い子たちです。
- 次に子どもたちに絞っていくと、良い子は以下の通りです。
- ・「良い子」はしてはいけないことをしない。「これをしたい」ということがない。
 - ・「良い子」はいくつになっても自分がない。
 - ・「良い子」はどう生きたらいいかわからない。
 - ・「良い子」は誰を好きなのかわからない。
 - ・「良い子」の最大の問題は、自分の好きなことがない。本気で「これがしたい」ということがない。
 - ・「良い子」は競争すべきでない人と競争する。だから仲良くできる人とも仲が悪くなる。
 - ・「良い子」は、親の言うことを何でも聞く。

まだまだたくさんあります。

加藤さんの言うところの「良い子」とは、自分にとって大切な人に従順であり、服従であり、反発せず、自分の意思を持たない、相手に自分をあわせてしまう子……。そのように感じられます。

ここで少しばかり「どきっ」とさせられるのが、結構日常にこのような「良い子」は結構いるぞと感じられてしまうことです。学校で何でも「ハイッ」と返事をし行動する子。いつもニコニコし、決して感情を外に出さない子。

実は反対意見であったとしても、自分を殺し本当の気持ちを出不さない子……。

そして読み続けていくうちに「自然な子」に出会います。これこそが子どもらしさ、つまり「ひと」らしさではないかと思うような子です。

自然な子の定義です。

- ・「自然な子」は、遊びたい、食べたいという欲求を持っている。
- ・「自然な子」は、子どもらしい欲望を持っている。
- ・「自然な子」とは、親を恐れていない子どもである。親を好きな子どもである。
- ・「自然な子」とは、正面から親と向き合って、ちゃんと自分の意思を伝えることのできる子である。
- ・「自然な子」とは、好き嫌い等をきちんと他者に言える子どもである。
- ・「自然な子」とは、イヤなことをイヤと言える子どもである。
- ・「自然な子」は、自然な感情を素直に出せる子どもである。

・「自然な子」が親を喜ばそうとするのは、親が好きだからである。

・「良い子」が親を喜ばそうとするのは、嫌われるのが怖いからである。

このふたつの違いが私を釘付けにしました。果たして今、目の前にいるお子さんはいったいどちらのお子さんなのか。私は自然な子たちとこれからもずっと、この小さな空間で接していきたいと思います。今、目の前で学んでいる子たちよ、自分の意思でここへ来てくれてありがとうね。そして自然な気持ちで机に向かっていて自分がいますね。「自然な子」になっている自分を、ぜひご家族の前で精一杯配ってください。ありがとう。